



# 学校だより

No.530

令和 4年 1月11日  
練馬区立田柄第二小学校  
校長 岩井 一雄

教育目標 : 元気な子ども ・ 考える子ども ・ 思いやる子ども

不 易

校長 岩井 一雄

新しい年、令和4年が幕を開けました。新型コロナウイルス感染症の拡大による突然の学校臨時休業などの経験から間もなく2年を迎えますが、変異型オミクロン株の急拡大など、未だその収束を見通せない状況が続いております。引き続き、区の感染防止ガイドラインに則り、今できる教育活動を工夫して進めてまいります。今年こそ、子供と教師、子供相互のコミュニケーション活動や地域の皆様とともに進める体験活動を取り戻し、子供も大人も、より笑顔が輝く年にしていきたいと心から願っています。

さて、年末に自宅の押し入れを整理していたら、初任の頃に作成した手書きの学年だよりが出てきました。昭和の終わりの頃、わたくしが初めて勤めた小学校にパソコンは存在せず、職員室に共用のワードプロセッサ(ワープロ)が一台あるだけでした。交代でワープロを使える時間は短く、ボールペンと修正液を片手に、手書きで提案文書やプリント作成を進めたことが思い出されます。ボールペンの擦れやインクのぼた落ちがあると、とても恥ずかしいことだと、ベテランの先生から注意された覚えがあります。せめてわかりやすい文字で書かないと・・・、と書き直しを指示され、悔し涙とともに夜遅くまでプリント作成を繰り返したこともありました。内容が変わっていないからといって、他の先生が書いた前年度の文書をコピーして切り貼りして使うことは、タブーとされていたように思います。今受け持っている子供の姿を思い浮かべ、よりわかりやすい表現で、自分の言葉で書き直すように、と教えられました。

効率的とは言えない部分があった故、昔が全てよかったとは思いません。しかし、経験しておいてよかったと思う側面はあります。実際の子供たちの姿や学校生活の様子を思い浮かべ、自分の頭で考え、一から文書を書く経験を積むことができたことです。また、自分の筆跡のくせを自覚し、上手とはいえないまでも読みやすい文字を書かなくては、という自覚をもてたことです。

ワープロがパソコンに代わり、一人一人の子供がタブレットパソコンを貸与される時代となりました。しかし、文を考へ入力するのは他ならぬ自分・子供自身です。

どんなに時代が変わろうとも、目の前の子供たちの姿をしっかりと見据えてよき成長を促す、この基本を大切に教育活動を進めてまいります。

## 1月の生活目標 「気持ちのよいあいさつをしよう」

「おはようございます」を発する人がいて、受け取った人がお返しの「おはようございます」を発信し、はじめに発した人が受け取ります。気持ちのよいあいさつをするためには、発する人と受け取る人の両方の気持ちが、明るく健やかであることや、あいさつを発する人と受け取る人との両方が、「互いを思いやる気持ちをもつこと」が大切になります。ご家庭でも、「あいさつ」について考える機会があるとよいと思います。